

中間評価（ステージゲート審査）結果

1. 研究課題名： 大腸がんの転移機構の解明
2. 研究代表者： 武田 はるな（国立がん研究センター 研究所 独立ユニット長）
3. 中間評価（ステージゲート審査）コメント

本課題は、転移性大腸がん形成の転移を制御する分子機序を解明し、新規治療法の開発を目的としている。

フェーズ1では、慢性炎症が大腸がん形成を促進すること、炎症微小環境では発がん経路が異なる場合があることを示し、さらにトランスポゾンを用いた手法で転移性大腸がんマウスモデルの作製にも成功した。独自の解析系を用いた意欲的な研究であり、着実に成果を上げている。

フェーズ2では、アクチビン受容体ノックアウトマウスの解析、アクチビンの大腸がん悪性化における機能解析、転移モデルの空間発現解析、及び転移特異的上皮間質相互作用の解析を計画している。大腸がんの治療標的を見つけて大腸がん悪性化の分子機序を解明し、新たな転移阻害剤の開発に向けた取り組みを期待する。

以上